



〈発行〉
掛川市議会
日本共産党
掛川市長谷 1-1-1
〈連絡先〉
勝川しほこ
電話・FAX
22-1325
ご意見・ご
要望をお寄
せ下さい

環境破壊を生まない 再生可能エネルギーの導入を！

メガ電力等の再生可能エネルギーの導入について
風力施設再生可能エネルギーの導入について

◆勝川 シーテック(中部電力子会社)が同様な風力発電の建設計画を出した三重県亀山市は、条例をつかい建設許可をしなかった。環境省も「初期の段階から、関係者との調整のもとで、風力発電の導入を推進しうるエリア、環境保全を優先するエリアなどエリアを分けることが有効。自治体にも取り組んでもらえるよう努めたい」と言っている。風力発電のガイドライン見直しが必要ではないか。

◇市長 現在のところ、考えていない。

◆勝川 道幅も広げ、最大で羽が半径65m、ポールが155mという大きな機材を山に上げる工事も行なう。原野谷ダムの上であり、土砂災害や水害の危険性のある場所。防災上のリスクはないか。



11月定例会での
勝川議員の一般質問

◇市長 再生可能エネルギーを増やしていきたい。再生可能エネルギーを増やす一つの手法として今回のシーテックの話も聞いている。防災上だけでなく、いろいろな意味で障害は起こりうる。多くの市民の意見を尊重しながら、これからしっかりと判断していく。

◆勝川 サシバなどの鳥の渡りのルートを塞ぐような配列であり、計画地は絶滅危惧種のクマタカの生息地でもある。意見書は「調査を実施すること」とあるだけで、かなりいいねいな言及をしている島田市などと比べても動植物保護の問題意識が低い。

◇協働環境部長 今の段階では具体的に申し上げる段階ではない。

◆勝川 議会への説明が先日あったが、内容のダウンロードもコピーもできない。もっと広く市民に周知をしていく必要はないのか。

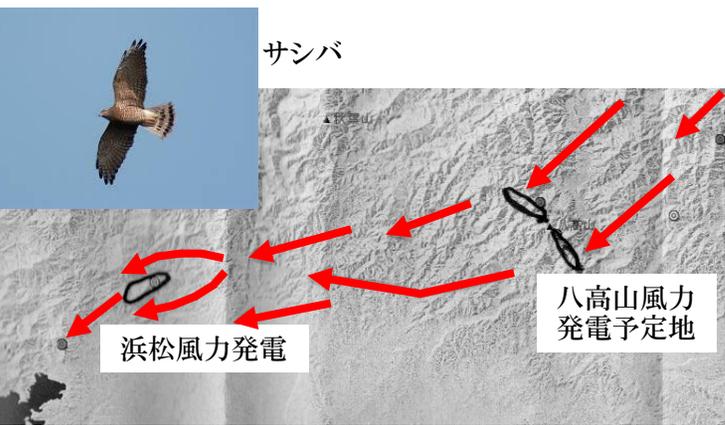
◇協働環境部長 地元と言う範囲も必要に応じて拡大していく措置は必要かなと考えている。どういう形で周知する方法があるか、事業者と相談していく。

◆勝川 水源涵養林に手を付けていいのか。

◇上下水道部長 水源涵養機能(水をためたり、川の水を安定して流す、水質を保つなど)を失う可能性を持っている。道路建設によっても自己水源に影響がでないとは言えない。

先に導入ありきではなく、適正導入のためのゾーニング(建設できる地域・できない地域や条件を先に示す)を。

広く市民の声をきいて、専門家の調査もふまえた上で、市は意見書をあげてほしい。



渡り鳥(サシバ)秋の渡りのルート

安心してねがえることができる介護保険の運用について

◆勝川 掛川市の介護認定率は14.9%と高齢化が進む割に上がっていない。認定率を下げる事を目標とするのではなく、介護保険を利用して生活援助などを受けて元気に生活するというようにするべきでは。

◇市長 社会保障費は増加している。市としては押さえた。できるだけ、生涯自立で、健康で学びつづけられる人生を目指してもらいたい。

◆勝川 介護保険は複雑でわかりにくい。広く周知をしてほしい。また住宅改修などは介護保険に繋がらないと受けられないサービスである。介護保険に早期につながることで重症化も避けられるのでは。ケアマネの役割も大切。

◇健康福祉部長 適切な時期に適切なサービスの提供が重度化の防止に有効。(介護認定を受けていない)一般介護予防事業の利用者も必要に応じて、迅速に介護サービスへの移行を図っている。

◆勝川 介護保険の利用料負担を国は1割から2割3割へと上げようとしている。市民の命と健康を守る見地から市長はどう考えるか。



◇市長 自己負担がだんだん増えてくる懸念はしている。本当に生活が大変な方たちには負担を可能な限り軽減できるようなことが必要だと思う。

◆勝川 上乘せ、横出しといわれる市の単独事業も大切にしたい。医療介護自己責任論に安易に陥らず、大丈夫だよ、政治が支えるよ、と言って初めて誰もが安心して長生きしたいと思えるようになると思う。市長、ちがいますか。

◇市長 その通りだと思えます。

安易に認定率をさげようとせず重度化させないため軽度な段階での適切な介護保険利用へのつなぎを！

医療介護を自己責任にしない暖かな運用を！

来年度からの医療・介護自己負担増の懸念

- ・国保・後期高齢者保険税の改定
- ・介護保険利用料自己負担増
- など

